



学生を中心とした活動

国家試験に向けての取り組み

社会福祉学部6期生は、2006年1月27・28日の社会福祉・精神保健福祉士の国家試験に向けて取り組みました。これまでの先輩の成果が、社会福祉学部の伝統になりつつあります。私たちはそれをプレッシャーに感じながら、先輩方の築き上げた勉強方法を見習って、受験勉強に取り組みました。

この報告では、私たち6期生が行った受験勉強の取り組みを紹介します。

①未知との遭遇

2006年2月に国家試験対策のガイダンスが開かれました。テキストや問題集といった受験生のバイブル・勉強方法について知り、先輩方の受験の体験とテキストへの書き込みといった1年間の蓄積に触れることで、国家試験という壁を感じました。これを期に、問題集を入手し始め、本格的に勉強を始めたのは7月以降でした。

②試行錯誤

大学が夏休みに入ると、精神保健福祉士取得のための現場実習や卒論とを平行しながら国家試験の勉強に臨みました。大学に来て勉強する学生と自宅で勉強する学生に別れ、それぞれが自分のペースで取り組みました。9月の中旬には受験の手続きがあり、本番の差し迫る緊張感と、「やらなければ！」という意識が強くなり芽生えました。

③噛みしめる自分の実力

10月には卒論の中間発表もあり、卒論が重点的になってくる時期でした。卒論の進み具合で、国試の勉強量にも差がある時期だったように思います。

10月29日には、初めて模擬試験を受けました。学生以外の受験者もいて、本番のような緊張感を味わうことができました。また、このとき初めて問題を通して解くことへの疲労感、時間配分の必要性を実感しました。模擬試験を通して自分の苦手分野を把握し、まだまだ曖昧な知識が多いことを知りました。これをきっかけに、勉強のペースを上げる人、グループ勉強をする人もみられました。その後も月に1度のペースで模擬試験を受けていたが、模擬試験で学ぶことは大きかったと思います。

④目標は高く大きく

12月に入ると学生からの要望を聞き、分からないという意見が多かった教科を先生方にお願ひし、国家試験の対策講座を開講してもらいました。参加人数は教科によって様々ではあったが、理解できていない事や覚えきれていない事などを再確認でき、確かな知識を身に付けることができました。また、講座を受けることによって来月に迫った国家試験を身近に感じ、さらに各自の勉強にも集中できました。

⑤時は金なり

国家試験を27日、28日に控えた1月、高知県立香北青少年の家において、4日、5日、6日の2泊3日で直前強化合宿を行いました。恒例となった合宿には、6期生の約3分の2の生徒が参加し、とても有意義に時間を過ごすことができました。この合宿では、パン

フレットも作成し、合宿に参加した23人と先生方に配布しました。合宿中は和室4部屋、洋室1部屋の5部屋に分かれ、それぞれのスタイルで勉強に励みました。先生方からは私たちが思った多くの差し入れをいただいて環境を整えていただき、勉強に集中した3日間を過ごすことができました。

合宿後から国家試験までは各自が自分のペースで勉強に励むと同時に、規則正しい生活が送れるように心がけ、試験本番まで悔いのない勉強ができたと思います。



付記

なお、本学5期生の合格率は、社会福祉士58.1%（全国平均27.4%）、精神保健福祉士94.1%（全国平均60.3%）でした。

平成19年3月31日

グローバルクラブ

私たちグローバルクラブは、「国際交流」、「地域交流」、「ボランティア」を三本柱として活動しています。具体的には、日韓学生合同よさこいチーム **Japarean** を結成して夏のよさこい祭りに参加したり、三里まつりや親水まつりなどのさまざまなイベントに参加したりして、よさこい披露などを行っています。

私たちにとって欠かせないのが、韓国学生との存在です。日韓学生合同よさこいチーム **Japarean** では、毎年韓国から学生を招き、共によさこい祭りに参加しています。約2週間という短い期間ですが、衣食住を共にし、語り合い、笑い合い、とても濃厚な日々を過ごさせてもらっています。日韓の交流の仕方は色々あると思いますが、よさこいもその一つなのです。日韓の踊り子が一つとなり、本祭ではじける姿にはとても感動を覚えます。昨年も良い思い出ができました。また、来てもらうだけでなく、こちらでも韓国を訪れることで互いの国を知り、文化を知り、友情を育んでいます。今年も彼らと、そして多くの踊り子に会えるのを楽しみにしています。

グローバルクラブの活動は、多くの方々のご理解、ご協力があるからこそ成り立っているのだと思います。これまでの活動を振り返っても、いつも応援してくれる誰かがいました。いろんな人との出会い、刺激のある経験ができるのがこの活動の魅力だと思います。今年で7年目となりますが、これまで先輩たちが築いてくださったもの、人と人とのつながりを大切にして、突き進んでいきたいと思っています。応援をよろしくお願いします。



♪ 太鼓部 ♪

あなたが社会福祉学部を選んだ理由は何ですか？太鼓部は、そのこたえにとっても近いところにいると、私は思います。想いを伝えるのに、ことばはいりません。

私は、二年前の四月、新入生歓迎会のサークル紹介で、初めて女子大に太鼓部があることを知りました。太鼓部の演奏を聴き、その演奏に胸を打たれて、私は太鼓部に入部しました。私はそれまで、太鼓など一度もさわったことがありませんでした。

太鼓部に入部してから出会った先輩や、同級生の仲間たちとの日々の練習は、ただ太鼓の技術を学ぶだけではありませんでした。人へ想いを伝えること、仲間を思いやることなど、太鼓を通して学ぶことは、本当に数多くあります。

こんなことがありました。私がまだ一回生の夏、とある高齢者の福祉施設で訪問演奏をする機会をいただきました。その福祉施設での発表は、当時一回生だった私にとって初めての、人前での演奏でもありました。その練習をしていく中で、先輩はこんな言葉を私たちに言いました。それが、今でも心に残っています。「太鼓の一つひとつの曲に、その曲を作った人たちのさまざまな想いが込められているんだよ。それを私たちが感じながら演奏をすること。これはとても大切なことだよ。」

この福祉施設での太鼓の演奏は、大成功でした。演奏後、施設の方々に大きな拍手をいただきました。拍手をしてくださる、施設の利用者さんの中に、涙を流している方がいました。太鼓の音が懐かしかったのか、もしくは、その太鼓の演奏曲に込められた想いを感じ取って下さったのか……。

太鼓部の演奏を聴き、こんなことを私たちに話して下さった方もいました。「一つの曲を大勢で演奏する太鼓。太鼓を演奏する者同士は、それまでの絆があるから、関係ができていくから、一つの演奏が完成される。」確かにそうなのです。一人で好き勝手に太鼓をたたいても、それは曲にはならないのです。仲間の音を聴きながら、相手を感じながら一つの曲を完成させます、それが太鼓です。

太鼓部は、頼れる顧問の先生、尊敬できる先輩、お互いの気持ちを分け合える仲間の集まりです。相田みつをさんの「人間だもの」は、私たちの合い言葉です。私は、太鼓部の一員であることに誇りを持っています。

❀池手話サークル❀

こんにちは！池手話サークルです。池手話サークルは4回生12人、3回生17人、2回生18人の計47人で活動しています。年々看護学部の部員も増えてきていますが、部員の多くは社会福祉学部の学生です。普段は週1回、手話通訳士の資格をお持ちの社会福祉学部の卒業生の先輩に来ていただき、手話を講義形式で教えてもらっています。雑談を交えながら楽しく、みんなで真剣に手話を学んでいます。

昨年度は普段のサークル活動のほかに、高知県聴覚障害者協会青年部との交流会、オープンキャンパスで情報保障としての手話通訳、大学祭での手話コーラス、高校生を対象としたボランティア研修会（福祉体験スクール）での手話講座のお手伝いなどの活動を行いました。聴覚障害者の方との交流会は手話を学んでいる私たちを、もっと手話を上達させてもっと手話を使って話しをしたいという気持ちにさせてくれます。大学祭での手話コーラスは、短い準備期間の中みんなで一生懸命練習に取り組み成功させることができました。手話コーラスを通して多くの方が“手話”に少しでも興味をもってくれたのではないかと思います。手話通訳や手話講座については、自分たちの力不足を感じ、これからもっとレベルアップを図っていかねばならないと痛感しました。年間を通して様々な活動を行ってきましたが、これら全ての活動は、私たちが手話を学んでいく上で大変貴重な経験になったと感じています。

来年度もまた様々な活動を通して、みんなで楽しく手話を勉強していきたいと思っています。そんな池手話サークルを今後もどうぞよろしくお願いいたします。



餅つき会 in 朝倉総合市民会館 2006.1.29

いけとべ！！

皆さんは不要となった車いすがその後どう処分されるかご存知でしょうか？

日本では、車いすや医療器具などが、あまりリサイクルされずに廃棄処分されていくケースが多いのです…。NPO法人「飛んでけ！車いす」の会では、日本で使われなくなった車いすを集め、修理をし、海外旅行をする旅行者の手荷物として、発展途上国の病院や施設に、直接送り届ける活動を行っています。

車いすを提供する、車いす引き取る、車いすを整備する、車いすを海外へ運ぶ、など多くの人の協力と支えあいのもとで成り立つこの活動に、とてもあたたかいものを感じた私たちは昨年、高知女子大サークル「いけとべ！」を結成しました。名前の由来は、高知女子大学社会福祉学部が「池」キャンパスにあること、そして、ここから車いすを「飛ばそう！」という気持ちをこめて名付けました。

去年は、地域のお祭りに出店したり、車椅子を提供してくれる方の所へ足を運んだり、また、車椅子購入や活動費のために空き缶のプルタブを集め始めました☆

現在、7台の車椅子を寄付して頂き、海外に飛び立つ日を今か今かと待っています！

出来立てほやほやのサークルです。おしゃべりも交えつつみんなで意見を出し合い、楽しく活動しています。



2007/01/13 女子大前☆

弘瀬病院(鴨部)の理学療法士の方から連絡をいただき、車いす6台をいただきました!! 道具がそろったらメンテナンスをして、新品同様の輝きを…☆メンテナンスは大事な活動の一環です。

学生を中心とした活動



2006/12/16 香川県造田駅前☆

緊張と期待でドキドキしながら、高知から高速バスで向かった行き先は香川県。記念すべき『いけとべ! 第1号車いす』は、新品同様の介護用車いすでした。まだまだ使用できる車椅子が倉庫でほこりをかぶっているのなんてもったいない!!

現在は6月23、24、25日にある福祉機器展の企画のポスター発表と出店の準備にむけて、話し合いをしています。毎年この機器展にはたくさんの方が集まります。『この活動を知ってもらえる絶好のチャンス☆』なので、少しでも多くの人に印象付けられるような、インパクトある、そして高知女子大らしい活動ができればいいなと思っています☆